

# 関西大学幼稚園

## 2022 年度学校評価報告書



2023 年 3 月

# 目 次

## 2022 年度 関西大学幼稚園 学校評価（自己点検・評価）分析

1	本園の概要	1
2	今年度の教育活動状況	1
3	評価の実施にあたって	2
4	評価の分析	3
5	学校関係者評価委員会からの評価結果	16
6	「学校評価（自己点検・評価）報告書」に対する園長の意見書	
7	アンケート結果	

## 1 本園の概要

関西大学幼稚園は、教育基本法を十分に尊重し、すべての園児が各自の人間性や能力を全面的に開花させていくことを目的として1951年に開設され、創立71年目を迎えている。

本園は、「自主性の陶冶」、「協同性の涵養」、「生きる力の育成」の3本の柱を教育の基本方針とし、様々な環境や境遇に育った子どもたちが、幼稚園の新しい環境と集団生活に適応できるように教育活動を実践している。「いきいきと自己表現ができ、積極的にいろいろなことに取り組むことのできる子どもにすること」、「みんなで協同して仕事をしたり、遊んだりすることのできる子どもにすること」、「困難に出会った時、前向きに解決していける豊かな感性と生活の知恵をもつ子どもにすること」を子どもの育ちのなかで見逃すことなく働きかけながら、子どもが子どもらしい感性を発揮し、心豊かに人間らしく育つことを、時代を越えて守っていかなければならないと考えている。

また、本園は自然環境に恵まれ、園舎前面に運動場があり、園庭には楠、桜、いちじく、せんだん、くぬぎ、かえで、つつじ、つばき、きんもくせいのほか、裏山には松、かし等の樹木に囲まれている。また、ざくろ、みかん、柿、ジューンベリー、ブルーベリー等の実のなる木や草花の存在は、子どもたちに四季折々の自然を身近に感じさせる楽しみとなっており、情操教育の一助となっている。

このような環境の中で、教育学や心理学及びその他の諸科学の進歩に即しながら、子どもたちの感覚を豊かにすることに重点を置きつつ、認識、情操、能力、健全な心と体の発達を図るための保育を開設以来積み重ねている。

一方、本園を運営する学校法人関西大学は、「Kandai Vision 150」に基づき、その実現のために、中期行動計画を策定し実施している。本園においても、この枠組みの中で基本方針と中期行動計画の連関を意識しながら教育活動を実践している。

## 2 今年度の教育活動状況

今年度もコロナ禍での保育となったが、これまでの経験を生かし行事や取組は、感染対策を講じながら工夫して行うことができた。コロナ禍になり、クラス単位で行う等、これまでは考えることがなかった視点で見直すことができ、より良い改善ができる機会となった。

併設校の利点を生かした大学との連携に関しては、関西大学国際部と連携し、保育時間中に外国人留学生を招き、園児と交流を深める取組を実施してきたが、昨年度同様、今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため実施を見合わせた。関西大学大学院心理学研究科の「心理アセスメント演習2」の一環として本園で実施する短期実習及び関西大学第一中学校との「総合学習」における生徒と園児の交流は、感染症予防に努めながら実施することができた。中学3年生との交流では、3年振りに音楽劇を鑑賞でき双方にとって有意義な

交流となった。

### 3 評価の実施にあたって

本園の自己点検・評価（学校評価）は、2020年度から、関西大学幼稚園教育課程における内容と幼稚園教育要領の5領域との関連に焦点をあて、4年かけて一巡する評価方法としていたが、コロナ禍でクラス懇談会が実施できない状況や教育内容も実施できていない現状があり、実施を5年に延ばすことにした。今年度は3年目である。

幼児教育は、何より保護者（家庭）との連携が重要であることから、保護者と直接関わる「クラス懇談会」において、本園の教育内容と幼稚園教育要領の5領域との関連を伝え、5領域を保育に組み込んでいることを理解していただけたかを点検・評価する取組にした。5領域の内容については、事前に保護者に手紙で周知し、理解を深めていただけるようにした。

本園では下表のように評価活動の年次計画をまとめている。

#### 2022年度 クラス懇談会での学校評価の内容

月	年少組	年中組	年長組
6月	みつろう粘土について	リズム運動について	絞り染めに関する制作活動について
7月		七夕制作について	
9月			体育的な遊びについて
11月	ぬらし絵について		
2月	人形劇について		

\*クラス懇談会終了後に、アンケートをとるようにし、悩みや質問については次回のクラス懇談会での話題にする。

2022年度の本園における主な自己点検・評価活動は以下の通りである。

日付	議題	内容
5月2日（月）	今年度の学校評価について	・
5月18日（水）	今年度の保護者・教員アンケートについて	・アンケート項目の作成
6月8日（水） 6月9日（木）	年中組クラス懇談会にてアンケート実施	・今年度の学校評価アンケート集計
6月16日（木） 6月17日（金）	年長組クラス懇談会にてアンケート実施	・今年度の学校評価アンケート集計

6月27日(月) 6月28日(火) 6月29日(水)	年少組クラス懇談会にてアンケート 実施	・今年度の学校評価アンケート 集計
7月8日(金) 7月12日(火)	年中組クラス懇談会にてアンケート 実施	・今年度の学校評価アンケート 集計
9月27日(火) 9月28日(水)	年長組クラス懇談会にてアンケート 実施	・今年度の学校評価アンケート 集計
11月10日(木)	年少組クラス懇談会にてアンケート 実施	・今年度の学校評価アンケート 集計
2月8日(水) 2月9日(木) 2月10日(金)	年少組クラス懇談会にてアンケート 実施	・今年度の学校評価アンケート 集計
2月28日(火)	教員用アンケート実施・集計	
3月14日(火)	学校関係者評価委員会開催	

本園の学校評価活動の特徴として、2010年度から保護者にも協力を仰ぎ、保護者と教員との間で本園の教育についての意識が共有できているかを検証している。今年度もクラス懇談会終了後に保護者アンケートを実施した。回収率は100%であった。

#### 4 評価の分析

##### (1) 年中組6月クラス懇談会

##### リズム運動について

##### 【現状の説明】

現代の子どもを取り巻く環境から、外遊びの頻度が減り、家庭においても子どもの体を動かす機会が少なくなり、身体を十分に動かして自発的に遊ぶ機会や経験が少なくなっているように感じている。その結果、つまずいて転んだり、転んだ時に手が出ない・つけない、人や物によくぶつかる等、自分の身を守るすべを習得する機会がうばわれているように思われる。また、少し動けば「しんどい」「つかれた」という声が聞かれ、体力面での弱さも感じられている。

そこで本園では、自分の身体を意識して動かす経験をさせる必要があると考え、リズム運動を行っている。リズム運動では、以下のような幼稚園教育要領の5領域のねらいと内容との関連を意識して取り組んでいる

- 「健康」
- ・明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
  - ・自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。

- ・様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- 「人間関係」
  - ・先生や友だちと共に過ごすことの喜びを味わう。
  - ・自分で考え、自分で行動する。
  - ・いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。
  - ・友達によさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
  - ・きまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- 「言葉」
  - ・人の言葉や話などをよく聞き、イメージを豊かにする。
- 「表現」
  - ・感じたことや考えたことを音や動きなどで自分なりに表現して楽しむ。
  - ・イメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。
  - ・様々な音、形、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。

本園のリズム運動は、埼玉県にあるさくら・さくらんぼ保育園の創設者である故・斎藤公子氏が運動を保証するという自身の保育理論に基づき考案したものを参考に、本園の子どもたちに合わせて取り組めるようにしたものである。リズム運動を通して日常生活や遊びだけでは不足しがちな身体の動きや運動量を補い、友だちと楽しみながら気持ちよく身体を動かし、バランスのよい身体づくりができるように考えている。子どもの成長に見合った運動を積み重ねることで、個々のペースで運動機能を刺激、獲得する機会となっている。決して訓練のように鍛えるのではなく、子ども自らが意欲を持って楽しく取り組んでいけるようにと考えている。(健康・人間関係・言葉・表現)

一つひとつの動きにはポイントがあり、動きの順番には意味があり、それぞれの学年の子どもの発達に合わせて3年間を通して積み重ねている。年少組では教員の真似をしながらピアノの音に合わせて身体を動かすことを楽しめるようにし、年中組では基本の動きのポイントを意識させ、意欲的に取り組めるようにしている。年長組では更に新たな動きに取り組み、手の先、指の先など身体の末端にまで意識ができるようにし、自分の身体を思うように動かすことのできる喜びや、充実感を味わうようにしている。(健康・人間関係・言葉・表現)

年中組と年長組の混合リズム運動では、積極的にリズム運動に取り組む年長児の動きを、年中児はよく見て模倣しようとしている。異年齢の関わりを持つことで、年中児は年長児に対して憧れの気持ちを持ち、意欲的に身体を動かすことにつなげたいと考えている。(健康・人間関係・表現)

また、リズム運動の取り組みは集団作りの一環と考えている。友だちの姿を励まし認め合える関係が育つように働きかけ、友だちと一緒に体を動かす楽しさや喜びを味わわせたいと考えている。  
(人間関係)

年中組の保護者には、6月にリズム参観を行い、実際に子どもたちが取り組む姿を見てもらっている。また、クラス懇談会ではリズム運動の話や生活の中で身体を動かす重要性和必要性の理解を深めてもらえるよう伝えている。年長組の保護者には3月にリズム参観を行い、リズム運動を積み重ねてきたことで運動面だけでなく心身共に成長している姿を見てもらう機会と捉えている。

今年度のリズム運動は、密を避けることを配慮し、年長は5月から週に1回（1・3学期はクラス単独・2学期は年中との混合クラス）、年中は5月から週1回（1・3学期はクラス単独・2学期は年長との混合クラス）年少は9月から週1回（クラス単独）で行った。

### 【点検・評価と今後の取組】

保護者アンケート調査によると「『リズム運動』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。」の設問に対して、「思った」との回答が100%であった。また、「『リズム運動』の話聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。」の設問に対しては、「子どもたちが笑顔でいきいきと取り組んでいる姿が印象に残った」「運動不足を感じていたのでとてもいいと思った」「体を使うことの大切さだけでなく、“やろうとする気持ち”を大切にすること、友だちを応援する気持ちをはぐくむ事など、園で大切にしていることを知ることができた」などの記述回答があり、クラス懇談会の働きかけや保護者の参観により、リズム運動の取り組みに対する理解を深めることが出来た。

今後も子どもの身体作りとして取り組み、保護者には参観とクラス懇談を通してより理解を深めていただけるように子どもの現状を交えて伝えるようにする。

## （2）年長組6月クラス懇談会

### 絞り染めに関する制作活動について

#### 【現状の説明】

鯉のぼり作りは、年長児の制作として続けられてきたもので、入園式や進級式、終業式などのお祝いの日や節目の時にあげている。そのため、年少児の時から鯉のぼりに親しみを持っており、年長児になり意欲的に取り組む姿が見られる。本園での絞り染めに関する制作活動は、以下の5領域のねらいと内容との関連を意識して取り組んでいる。

「健康」 ・ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

「人間関係」 ・ 自分で考え、自分で行動する。

- ・ いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- ・ 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。
- ・ 友達との関わりを深め、思いやりをもつ。
- ・ 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- ・ 共通の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。

「環境」 ・ 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。  
・ 身近な物を大切にする。

「言葉」 ・ 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。

- ・ したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なり

に言葉で表現する。

- ・したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
  - ・人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
  - ・いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- 「表現」
- ・生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
  - ・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
  - ・いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
  - ・感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
  - ・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。

年長児の当番が園庭にあげる鯉のぼりは、保育室や裏山で遊んでいる時も見えるところにあり、子どもたちは鯉のぼりに親しみを持っている。年長児にとっては、年長児になって初めての取り組みであり、年少児の時から見えてきた鯉のぼりを、作ることを楽しみにしているため3学年の繋がりを意識し取り組ませている。(健康、人間関係)

鯉のぼり制作では、1人1枚うろこを作るための布を、断つ・小石を布にくるみ輪ゴムをかける・染める・すすいで干す・輪ゴムをほどく・アイロンをかける・縫う、の7工程を1か月程かけて行い、その過程を楽しみにできるように働きかけている。紙とは違う布の切れる感覚やはさみの使い方を知ること。染めるために布を水洗いし糊をおとし、絞って干すこと。小石を布でくるみ、絞り染めの模様がしっかりと出るように、何度も輪ゴムをかけて留めること等を意識させている。教員と一緒にやったり友だちに教えてもらいながらやるうちにコツをつかんでいく姿が見られ、できた時は達成感を感じている様子が見られる。(健康、人間関係、環境、言葉、表現)

そして、子どもたちの前で染め液を作り、小石をくるんだ布を染め液に入れて染める。染まったらすすいで干し、布が乾いたら輪ゴムをほどく。何度もかけた輪ゴムをほどくことは子どもたちにとって根気のいるものであるが少しずつ白い布が見え、模様が出たときは驚きと歓声があがる。また、友だちとの模様の違いを楽しむ様子もある。その後、アイロンをかけてしわを伸ばす際には、アイロンは使い方を間違えると危ないこと、子どもだけで触らず大人と一緒に使うことを伝えると、手元を見て真剣な表情で取り組んでいる。(健康、人間関係、環境、言葉、表現)

次に、針と糸を使つてうろこを縫う作業は、子どもが自分のペースで取り組むことを大事にしている。縫うことは初めて経験する子どもが多く、針穴に糸を通すことから苦戦し、うろこにつけた線の上を狙って針を刺すことに苦労する姿があるが、何度も挑戦することで、



徐々に手先が慣れてくる様子が見られた。途中で投げ出すことなく最後までやり切る姿を、周りで友だちが見守るという子ども同士の関わりも見られる。最後に、しっぽや目、ひれにクレヨンで色を塗り、背中とひれを有志の子どもたちが縫い、教員がこいのぼりの口の周りを縫い、金具をつけて鯉のぼりが出来上がる。(健康、人間関係、環境、言葉、表現)

子どもが取り組む過程では、指先をコントロールすることや根気、集中力が必要である。これらの工程を楽しんで取り組むことができるように、それぞれの子どものペースを大切に、出来た喜びや達成感を味わうことができるようにと考えている。初めての作業の中では上手いかない場面もあるが、何度でもやり直すことができることを知らせ、やり直すことで出来るようになることを経験し、この経験が年長児としての自信になっていくと考える。約1か月かけてクラスのみんなで1つの目標に向かって取り組み、やり遂げる喜びを通して、達成感や充実感をみんなで共有し、クラスの仲間意識を育てていく取り組みにしている。(健康、人間関係、表現)

今回のクラス懇談会では、保護者に制作過程での子どもの気持ちを想像したり、園での取り組みを理解してもらえるように“絞り染め”の体験してもらった。6月の懇談会では小石を輪ゴムで布にくるみ染める工程を体験してもらい、7月のクラス懇談で輪ゴムをほどこき、出来上がるのを楽しみにしてもらった。

#### 【点検・評価と今後の取組】

保護者アンケート調査によると、『こいのぼり作り(絞り染め)』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。』という設問に対し、「思った」との回答が100%であった。また、『こいのぼり作り(絞り染め)』の話を聞いたり、絞り染めをして思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですでお書きください。』の設問に対しては、「年少の頃から見えてきたこいのぼりを作れるということに、娘はとてもよるこんでいました。その姿を見て、成長を感じ作ることの楽しさ、みんなで共有することの楽しさを感じてもらえたらと思いました。」「こいのぼり作りでは、様々な工程の中で、集中する力やその素材を感じ親しむ力、クラス全員で1つのことをやり遂げる力などをつけて子どもを成長させる活動だと思いました。」「子どもから針でぬった時の話をきいて、難しいことに挑戦したこと、がんばってやりとげた達成感やよるこびを感じていることが伝わってきました。話をきいて、園での様子をより知ることができてよかったです。」「家庭ではなかなか経験できない作業を、何工程も積み重ねて、1つの物を完成させていくというのは、子供にとってすごく貴重な経験だと思うし、ありがたいです。」「昔からの伝統を大事にし、色々と経験させていただいていることに感謝です。また私自身も絞り染めをしたのは初めてなので、どんな感じに仕上がるか楽しみです。」という回答があった。これらのアンケートの結果から、教員の話と絞り染めの体験を通じて保護者の方が子どもの姿を想像し、鯉のぼり作りを通して育てていきたい思いや子どもの成長を感じて頂けたことがわかった。今後もこのような体験を通して、保育の理解を深めてもらえるよう努めていく。

### (3) 年少組6月クラス懇談会

#### みつろう粘土について

##### 【現状の説明】

本園では、年少の6月から9月にかけてみつろう粘土で遊んでいる。みつろうとは、ミツバチが巣を作るために生み出す成分で、天然の抗菌作用があり、衛生的である。自然由来のものであるため安心して遊ばせることができ、ほのかなみつろうの香りも感じる。みつろう粘土は常温では硬く、手の熱で温めて柔らかくしてから遊ぶもので、粘土の感触を楽しむことや、粘土を伸ばしたりつまんだりして遊ぶなかで形が変化する楽しさを感じることをねらいとしている。今回のクラス懇談においては、保護者が話を聞くだけでなく手に取り、体験してもらうことでより理解が深まると考え、みつろう粘土の成分や特徴を知らせた後、実際保育で行ったみつろう粘土の取り組みを体験してもらった。みつろう粘土での遊びにおいては、以下の5領域のねらいとの関連を意識して取り組んでいる。

##### 「健康」

- ・先生や友達と触れ合い、安心感をもって行動する。
- ・様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

##### 「人間関係」

- ・友達の良さに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。

##### 「環境」

- ・生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
- ・自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。

##### 「言葉」

- ・先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
- ・したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
- ・したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
- ・いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。

##### 「表現」

- ・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- ・かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。

年少児がみつろう粘土で遊ぶときには、椅子を円にして座り、子ども同士の関わりが持てるようにしている。粘土であることは伝えずに、教員から子どもたちの手へ手渡すことで、初めて目にするみつろう粘土に興味・関心が持てるようにしている。そして手のひらで粘土を温めて柔らかくすることで子どもたちは手に意識を向けて感触の変化を感じ、その変化を言葉にして教員や友だちに伝える姿がある。(環境・言葉)

教員が手のひらを合わせて薄く伸ばす、引っ張って横に伸ばす、手のひらで転がして丸め

る、指先を使ってつまみ出すなどやって見せることで、子どもたちは形の変化に面白味が増し、他の形を作りたい興味に繋がる。油粘土では粘土板や型を用いて形を作ることが一般的であるが、みつろう粘土では指先を意識して使う経験ができ、友だちの手の動きや、形を真似してやろうとする姿がみられる。(環境・健康・言葉)

指先の動きと力の加減による形の変化や偶然できた形を楽しむようにしている。また教員は、季節にちなんでカタツムリを作って見せたり、園内の散策で見つけた植物など、子どもたちにとって身近なものを作って見せることで、子どもたちが作ってみたいと思えるようにしている。作ったものはすぐに片付けず、子どもの目に見える場所に飾ることで生活に繋がりが持てるようにしている。(健康・環境・表現)

### 【点検・評価と今後の取り組み】

保護者アンケート調査によると、『みつろう粘土』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連しているとおもいましたか。」の設問に対して、「思った」との回答が96.3%であり、「まあまあ思った」との回答が3.7%であった。「まあまあ思った」との回答に対する記述がないので理由はわからないが、下のお子さんを連れてクラス懇談会に参加する保護者の中には、下のお子さんの様子が気になりじっくりと話を聞くことや体験することが難しい状況があるため、理解を深めていただけなかったのではないかと推察する。また、『みつろう粘土』の話を聞いたり、触ってみて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。」の設問に対しては、「手触りが良く、温まると少しずつ柔らかくなり、好きな形が作れて楽しいと思った。円になり座って作ることで、他の友だちが作ったものを見て刺激になり、良いと思った。」「自然のもので、安心できるところが良い。また最初に『粘土』と伝えず『温めるとやわらかくなる』と伝えない事で、子ども達が自分で見つける事の楽しさが生まれると感じました。」「はじめは固かったですが、体温でゆっくりと柔らかくなりながら、友だちと声や表情で対話しながら遊べるものだと温かい気持ちになりました。」との記述回答があった。保護者に5領域と関連して伝えたことで、子どもたちが友だちと一緒に活動する楽しさや、想像力を豊かにしていることが理解されたとアンケート結果からわかった。今後も、子ども自身が粘土の感触を感じて楽しめること、その時期の子どもが身近に感じているものを取り入れて遊ぶことが出来るように努めていく。

#### (4) 年中組7月クラス懇談会

##### 七夕制作について

### 【現状の説明】

日本に昔から伝わる季節の行事、七夕の由来を各学年の子どもにわかりやすく伝え、笹飾りや短冊の制作を通して七夕を知り、また夜空の星に興味をもつ機会になるようにと考えている。これらの体験を重ねる中で、以下の5領域のねらいと内容との関連を意識して取り組んでいる。

- 「健康」
  - ・様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
  - ・明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
- 「人間関係」
  - ・身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。
  - ・自分でできることは自分でする。
  - ・いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
  - ・友達によさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
  - ・友達と楽しく活動する中で共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。
  - ・友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。
- 「環境」
  - ・季節により自然や人間生活の生活に変化のあることに気付く。
- 「言葉」
  - ・人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
  - ・したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
  - ・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
- 「表現」
  - ・かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。

七夕は日本に昔から伝わる季節の行事で、「7月7日の夜、天の川にかかるかささぎの橋を渡って織姫、彦星の二つの星が出会う」という中国から伝わった星まつりである。本園では、七夕の由来を各学年の子どもたちにわかりやすく伝え、歌を歌ったり、絵本を読んだり、笹飾りや短冊の制作に取り組み、七夕や夜空の星に興味を持てるようにしている。

(健康・人間関係・環境)

年少組の制作は星形の画用紙に顔を描き織姫と彦星を作り、のりを使い三角つなぎと四角つなぎを作る。年中組では線の上をハサミで切り、星を作ることから始め、輪つなぎ、切り紙つなぎ、スイカを作り、自分の願い事を絵で描き短冊を描いて飾っている。年長組では更に、おうぎ、貝殻、天の川、きゅうり、なすを作る。一つひとつの飾りには意味があることを伝え、制作を通し七夕を知り、願いを込めながら作れるように働きかけている。のりやハサミの使い方だけでなく、線の上を切る、止めるなどのポイントを意識させ、出来た喜びや満足感を味わい、意欲的に取り組めるようにしている。また、出来上がった作品はその都度持ち帰れるようにし、家庭でも窓辺に飾り、夜空を眺めながら家族で話をするきっかけになればと考えている。(健康・人間関係・表現)

本園では、大学構内の竹林から切り出してもらった大きな笹(竹)を年長児がクラス全員で力を合わせて幼稚園まで運んでいる。年少・年中児は、その年長児の姿を憧れの気持ちで見ている。(健康・人間関係)

翌日には、運んだ笹に子どもたちが作った笹飾りと短冊を結び、7月7日はホールに立て

られた飾りのついた大きな笹の下で七夕の集いを行っている。年長児が持ってきてくれた大きな笹を下から見上げたり、色々な七夕飾りを見たり、七夕の歌を歌ったり、年齢に合わせた七夕の集いを行っている。(健康・人間関係・言葉)

### 【点検・評価と今後の取り組み】

保護者アンケート調査によると「『七夕制作』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。」という設問に対して「思った」との回答が100%であった。また「『七夕制作』の話聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。」という設問に対しては、「七夕当日に楽しむだけでなく、当日までに少しずつ由来や歌を教わったりすることで自然と知識も身につくと思った。」「3週間も前から向き合い、じっくり考えたり伝えたりして下さり、子どもも積み重ね学ぶことできちんと身につけていると思った。」「行事として知るだけでなく、七夕を楽しんで過ごせることがとてもいいように思う。」「毎回とても嬉しそうに作った飾りを持ち帰って見せてくれていた。」等の記述があった。これらのアンケートから本園が大切にしていることを理解していただけたことがわかった。今後も3年間の積み重ねを大切に、日本に昔から伝わる行事を理解していける機会になるように努めていく。また、家庭でも自然や季節の変化に興味や関心を持ってもらえるように働きかけることを大切に考えている。

### (5) 年長組9月クラス懇談会

#### 体育的な遊びについて

##### 【現状の説明】

本園では、縄跳び、まりつき、竹ぼっくり、一本下駄、竹馬、丸太橋、鉄棒、ジャングルジム、うんてい、滑り台、集団遊び、かけっこ、リレー等の体育的な遊びを通して体を動かす楽しさを感じさせたいと考えている。また、子どもが自分からやってみたいと思えることを大切にしている。こうした保育内容は、以下の5領域のねらいとの関連を意識して組み立てている。

- |        |   |
|--------|---|
| 「健康」   | <ul style="list-style-type: none"><li>・いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。</li><li>・進んで戸外で遊ぶ。</li><li>・様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。</li></ul>  |
| 「人間関係」 | <ul style="list-style-type: none"><li>・先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。</li><li>・自分で考え、自分で行動する。</li><li>・友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。</li><li>・友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。</li><li>・友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。</li><li>・友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守ろうとする。</li></ul> |

- ・ 共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。
- 「言葉」
- ・ 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
  - ・ したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
  - ・ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり分からないことを尋ねたりする。

年中児が年長児の刺激を受けて取り組む姿も見られ、子どもから子どもへ遊びのルールやコツが伝わっている姿がある。(人間関係・言葉) 竹ぼっくりや竹馬、縄跳び等は繰り返し取り組み、挑戦することでコツをつかみできるようになっていく姿がある。教員はあきらめずに取り組む姿勢が育つよう働きかけ、できなかったことができるようになる喜び、達成感を感じさせたいと考えている。そして、できるようになった喜びが次の活動への意欲につながっていくと考えている。また、ルールや順番を守って遊ぶこと、安全に気をつけて遊ぶことを意識させ、子どもの身につくよう指導している。(健康・言葉・人間関係)

集団遊びでは、子どもの身体の発達を踏まえ、年少組では“むっくりくまさん”や“あぶくたった”、年中児では“へびじゃんけん”や“氷鬼”、年長児では“はじめての第一歩”や“ドッジボール”等をクラスで取り組んでいる。また、戸外遊びに適している10月は、運動月間として体育的な遊びを積極的に取り組んでいる。かけっこ、リレー、玉入れ等、学年別に子どもの発達に見合った種目に取り組み、バランス感覚等の運動面の発達だけでなく、最後まで諦めずに取り組む姿勢やルールを理解し守って取り組むこと、友だちと一緒に力を合わせて取り組む楽しさや喜びを感じられる精神面の成長発達も大切に考えている。(健康・人間関係・言葉)

### 【点検・評価と今後の取組】

保護者アンケート調査によると、『『体育的な遊び』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。』の設問に対して、「思った」が97.9%、「まあまあ思った」が2.1%であり、100%に近い保護者に理解していただけたことがわかる。また、『『体育的な遊び』の話聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですでお書きください。』の設問に対しては、「体育的な遊びを通して、体の成長だけでなく、友だちとの関わり方やルールを学んだりする心の成長をしっかりと学んでほしいと思いました。」

「年中組の時、家で竹ぼっくりをした時は出来なくてすぐ諦めてしまったけれど、幼稚園でできるようになり、年長組になると出来るようになりました。毎日少しずつ頑張って出来るようになり、『体だけでなく心も育つ』という言葉がとても納得でき印象に残りました。」「人間関係という面で、とても成長することがあると思いました。例えば鉄棒で紐を使ってブランコをするという遊びは、娘が年中の時に年長のお姉ちゃんから教えてもらったそうです。今はそれを年中の子が『それどうするの?』と聞いてきたから教えてあげたよと言っていま

した。友だちの中で伝承して遊びをするのは協力し合うこと、同じ遊びをして喜びを味わうことに繋がっているなど思いました。」といった、本園の保育観に触れるような回答があり、運動面だけでなく精神面の成長発達を大切に考えていることを理解してくださっていることがわかる。これからも、体育的な遊びを通して子ども同士の関わりや諦めずに取り組めるような働きかけに努めていく。

#### (6) 年少組11月クラス懇談会

#### ぬらし絵について

##### 【現状の説明】

本園でのぬらし絵は、水で濡らした紙の上に絵の具で描いて、にじむ色の世界を楽しむものとして、保育室で自由に遊んでいる時に順番で行っている。ぬらし絵を取り入れた保育内容は、以下の5領域のねらいとの関連を意識して取り組んでいる。

- 「健康」 ・ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- 「人間関係」 ・ 友だちの良さに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。
  - ・ 友だちと楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。
- 「環境」 ・ 生活の中で様々なものに触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ。
- 「言葉」 ・ 先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみを持って聞いたり、話したりする。
  - ・ したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
  - ・ いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- 「表現」 ・ 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりなどして楽しむ。
  - ・ いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
  - ・ かいたり、作ったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、触ったりする。

ぬらし絵では、絵の具がにじんで広がり思わぬ形が生まれる様子を子どもたちが、感じ、驚き、楽しむことを大切にしている。絵の具が広がるため形にとらわれず、絵に苦手意識をもっている子もその気持ちから解放され、楽しむことができる。(健康・環境・表現)

また、二色・三色の混色を楽しむようになると、色と色が出会い、新しい色が生まれることに子どもたちは気づき、積み重ねていくうちに色を自分で作り出すようになる。教員は色と出会ったときの子どもの驚きや喜びに共感し、共に色の世界を楽しむようにしている。ま

た、筆を使うため、その扱いや持ち方を丁寧に伝えている。(健康・人間関係・環境・言葉・表現)

本園でぬらし絵を取り入れている意図や、子どもがどのようにぬらし絵に取り組んでいるのかを保護者に知っていただくために、今回のクラス懇談会において実際にぬらし絵を体験してもらった。

### 【点検・評価と今後の取組】

保護者アンケート調査によると『ぬらし絵』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いますか。」という設問に対しては、「思った」との回答が100%であった。また、『ぬらし絵』の話の聞いたり、体験して思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。」という設問に対し、「絵が苦手ですが、誰でも楽しく出来そうだなと感じた。」「意図と違う表情を瞬間瞬間で見せてくれるので魅力を感じた。」「子どもの頃に戻ったような気持ちになり、ワクワクしながら体験しました。また、乾いてどんな感じに仕上げるのか二度楽しめると思いました。」「じわじわと色が交わる様子は普段の生活ではあまり見かけないので、子どもは不思議だななど色々な気持ちが芽生えそうだなと思いました。」等の記述があり、実際に体験することでぬらし絵に対しての理解が深まっていると感じた。今後も理解を深めていただけるよう、クラス懇談会で保護者に体験をってもらうことを継続していく。

### (7) 年少組2月クラス懇談会

#### 人形劇について

#### 【現状の説明】

本園ではお話の世界に浸り楽しむことで、想像力を育てることを目的として子どもたちに人形劇を見せ聞かせている。人形劇では、以下のような5領域のねらいと内容との関連を意識して取り組んでいる。

「健康」 ・ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

「人間関係」 ・ 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。  
・ 友達と積極的にかかわりながら関係を深め、喜びや悲しみを共感し合い、思いやりを持つ。  
・ 自分の思ったことを伝え、相手の思っていることに気付く。

「環境」 ・ 生活の中で様々なものに触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ。



- 「言葉」
- ・先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみを持って聞いたり、話したりする。
  - ・生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。
  - ・絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像をする楽しさを味わう。
- 「表現」
- ・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。

人形劇は、絵本と同じように、子どもたちがお話の世界を楽しみ感じるものとして大切にしている。お話は昔話や季節に合ったもの、子どもの成長段階に見合ったものを選んでいく。(環境)

人形は羊毛や優しい色の布で作られ、目鼻は描いていない。お話を耳を傾け人形の気持ちを感じ、その表情を子どもが心の中で描くことで、想像の世界が広がると考えるからである。舞台となるテーブルは、布や木片、木の実等の自然のもので背景を作っている。教員は、子どもたちが想像力を膨らませることができるよう、自分の感情を押し付けず静かにゆっくりと語るようにしている。(表現・環境)

人形劇は月に同じものを2～3回見るようにしている。子どもたちは同じお話を繰り返し見ることによって新たな発見をしたり、感じ方が変わるなど、お話のおもしろさを深めていけるのではないかと考えている。(言葉・健康・人間関係・表現)

年少組では保育室で、年中・年長組になると「おはなしのへや」で学年ごとに人形劇を見る。3年間で同じ人形劇をくり返し見ることで、年齢ごとに話の深まりを感じているようである。また、年長組になると、自由遊びの中で室内の遊具を使って人形劇ごっこを楽しむ姿も見られるようになる。(人間関係・環境・言葉)

今回のクラス懇談会においては、人形劇についての考えや、人形劇を見る子どもたちの様子を伝えた後に、2月に保育室で行った『てぶくろ』の人形劇を見ていただいた。

### 【点検・評価と今後の取組】

保護者アンケート調査によると「『人形劇』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。」の設問に対して、「思った」との回答が97.8%であった。また、「『人形劇』の話聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。」の設問に対しては、「私はついつい登場人物になりきってしまうのですが、先生のように静かに語りかけるように言うことで、子ども本人が感じる世界観がもっと広がっていいのかなと思いました。」「劇の細工から手の込んだ作品であり、あたたかみを感じました。」「子ども一人ひとりの思いや感想を大切にしてくださっていると思いました。」「集中力、共感力、想像力が身に付くので素晴らしいと思った。」との記述回答があった。これ

らのアンケート結果から、教員の話だけでなく実際に見ていただいたことでより理解が深まったと考える。人形劇は、入園式の日にも『ちょうちよのきょうだい』を見ていただいているが、園生活初日で保護者自身も子どものことが気になり、じっくりと人形劇を見る気持ちの余裕が持てないことも理解できるので、今後もクラス懇談会で保護者が見る機会を持つことを継続していく。

## 5 学校関係者評価委員会からの評価結果

### 〈自己点検・評価の適切性〉

関西大学幼稚園では、2009年度から毎年、自己点検・評価を行っており、どの年度も保護者から非常に高い評価を得てきた。

2020年度からは、本園の教育内容と幼稚園教育要領の5領域との関連に焦点を当て、4年かけて一巡するという方法を取り始めたが、コロナ禍で、クラス懇談会や教育内容において実施できていない部分もあるため、5年で一巡することになった。本年はその3年目である。

幼稚園教育要領は教育課程の基準を定めたものであり、幼稚園の教育水準を確保するものとなっており、この要領に基づいてすべての園が教育を行っている。本園では早くから総合的な教育を行ってきており、教育内容がその学年だけにとどまらず、上位学年へと関連しながら進展し、小学校以降の教育につながっていくことを踏まえて、その学年だけの単年度の教育ではなく、積み重ねていくことが子どもの成長にとって大切であることを全教員が理解し実践している。このことから、1年ごとに学年が終わるのではなく、それぞれの1年が、年少組は1・2・3学期、年中組は4・5・6学期、年長組は7・8・9学期となっている。このように3年かけて子どもたちの成長が進むようカリキュラムが組まれている。この教育スタイルは、一つ一つのカリキュラムに反映されており、連続した教育が子どもたちの日々の活動の中に生かされている。本園ではこのように総合的な教育を行っていることをホームページに掲載し、保護者や関係者が随時園の教育のあり方を確認できるようにするとともに、プリントにして配布し、クラス懇談会で園の教育内容と幼稚園教育要領5領域の関連を直接伝えてきている。また、保護者に教育内容を伝える方法として、言葉で伝えることに加えて、保護者自身に教育を体験してもらうという方法をとった。

このような園の工夫や努力が、園の教育と幼稚園教育要領の5領域との関連およびその意義について保護者の理解を進めることにつながっており、今年度の自己点検・評価は適切に行われている。

### 〈重点的な取り組みの適切性〉

本年度は年少組に対して、6月に「みつろう粘土」、11月に「ぬらし絵」、2月に「人形劇」について尋ねている。みつろうはミツバチが巣を作るために生み出す成分であるが、保

護者にも見たことのない方があると思われる。ましてや年少の幼児は、まず見たことも触ったこともないであろう。初めてのものに触れる不安の方が大きいと思われるが、教員や他児の楽しく遊ぶ様子を見ながら触ってみようという気持ちが芽生え、遊び始める。保護者の96.3%が5領域との関連を理解している。「ぬらし絵」は色が重なり織りなす世界を楽しむことができる。絵を描くことが苦手な子どもも色の広がりを楽しむことができ、のびのびと遊ぶことができる。すべての保護者が5領域との関連を理解していた。「人形劇」は、子どもたちの想像力を育むことを目的として行われている。年少の時期は登場する人形にも命や気持ちがあると考えており、人形になり切って見聞きしている。教員は子どもがそれぞれ想像力を膨らませることができるよう、静かにゆっくりと語るようにすることで、子どもの世界を広げていっている。保護者の97.8%が5領域との関連を感じている。

年中組に対しては6月に「リズム運動」、7月に「七夕制作」について尋ねている。「リズム運動」は子ども自身が意識して自身の身体を動かす経験により、バランスの良い身体作りができるようにと考えて行われている。これは報告書にもあるように、訓練のように鍛えるのではなく、身体を動かすことの喜びを感じながら子どもが自ら取り組むことを意図している。特に幼児期は、こころと身体器官が互いに関連しあって発達するものであり、リズム運動は音楽を聴きながら身体を動かし、自身の体の動きを身体感覚だけでなく目でも確認し、こころでも心地よさを感じるようになる。すべての保護者が5領域との関連を理解している。「七夕制作」は伝統行事の一つである七夕を子どもたちが制作することを通して、日本に古くから伝わる行事に親しみ、七夕の由来や星への興味を持つようにしている。各家庭で伝統行事に対する関心や考え方は異なるが、子どもが持ち帰った七夕飾りを見て、家族で話し合うよい機会となる。全ての保護者が、5領域との関連を理解している。

年長組には6月に「絞り染めに関する制作活動」、9月に「体育的な遊び」について尋ねている。「絞り染めに関する制作活動」では、鯉のぼりを制作する。

報告書にあるように、7工程を1か月かけて行うものであり、幼稚園の制作の中では最も時間をかけるものである。細かい作業を継続して続ける力が備わってきている年長児であるからこそできることであり、保護者のすべてが5領域との関連を理解している。時には間違い、やり直しが必要な時もあるが、完成するまで投げ出さない忍耐力、みんなで一つのものを作り上げる協力や協同の力が備わってくるのを感じる。「体育的な遊び」ではいくつかの身体を使った遊びを取り入れている。この年齢段階の子どもは、一つ一つの個別のからだの動きを複数組み合わせることで遊ぶことができるようになる。その遊びには一人でやるものもあるが、報告書にあるように、遊びのルールやコツが子どもから子どもへと伝わり、集団遊びの楽しさを味わうものもある。そこでは一人ではできないことを互いに補い合い、知っていることを伝えあい、困っている子に力を貸すという、大人から言われなくても子どもたち自身が周りを思いやり、みんなで楽しむためには何ができるかを考える子に育っていくであろう。97.9%の保護者が5領域との関連を理解している。

以上のように、ほとんどの保護者が、一つ一つの教育内容が決して単独ではなく、他のさ

さまざまな領域との関連の中で行われており、そのことが子どもたちの成長に深く関わり、一つの教育内容が多方面の学ぶ力を育てていることを理解している。保護者が幼稚園教育要領の5領域と本園の教育内容との関連を十分に理解していることから、本年度の重点的な取り組みは適切であるといえる。

#### 〈自己点検の結果を踏まえた改善方策の適切性〉

本園では、報告書にあるように、一昨年度・昨年度に続き今年度もまた、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事や取り組みはクラス単位で行う等、方法を変えて教育を行った。そこでは、これまで行ってきることができなくなったという否定的な見方ではなく、コロナ禍で実施方法を変えたことがもたらす肯定的な側面、たとえば、学年全体で行ってきたことをクラス単位で行う方がよいこともあるということに実践の中から気づいたことで、よりよい教育方法を見出していくことができている。

教育カリキュラムは幼稚園教育要領に則ったものであるため、毎年同じである。しかし、それを学ぶ子どもたちは毎年入れ替わっており、また、子どもたちが学んでいる社会的状況や背景、家庭環境はそれぞれ異なっている。コロナ禍のような過酷な環境にあっても、子どもたちは日々通園し、学んできた。その学びが安心できる環境で行えるよう教職員は力を尽くしてきた。保護者は教育に何を求めるか、子どもたちにどのように育ってほしいのかを本委員会では話し合った。幼稚園指導要領にみられる幼稚園教育において育みたい資質・能力は、知識と技能の基礎、思考力・判断力・表現力の基礎、学びに向かう力、人間性の涵養である。教育カリキュラムは当然これを実現するよう組まれている。そして、それぞれが互いに影響しあい、相乗効果を生み出して子どもの成長を促すものとなっている。これらを実践する時に重要なのは、保護者が教職員を信頼し、教職員が保護者を信頼することであろう。前者は教職員の自信につながり、後者は保護者の自信につながる。互いの自信は子どもにとっての安心につながる。安心して教員に子どもの教育を任せ、安心して保護者に家庭でのしつけや教育を任せられる関係があればこそ、子どもは落ち着いて学びを深めていくであろう。本園では何ができるかを見せる教育やできることを目標とした教育ではなく、日々の学びの中から育っていく生きる力を育む教育を行っている。最新のものはいくらでもあるし、取り入れることもできるが、伝統に裏打ちされた教育を行うことの大切さを示しており、3年かけて形あるものになっている。

新型コロナウイルスの影響を受けた3年間は、子どもたち、保護者、教職員、誰にとってもそれまで経験したことのない、未曾有の時であった。この先どうなるかわからない不安も、これまでの保育を受けられない不満も、いつになったら日常を取り戻せるかわからない先行きの見えない不安も、大小の違いはあってもほとんどすべての人が経験したことであった。つらいのは一人でないという感覚、同じ気持ちを共有することは安心感につながる。そしてそこに、何があっても受け止めてくれる教職員がいることがその安心感を大きくしてくれる。本園の、できることから一つずつ丁寧に行われる保育がきらりと光ったのではない

だろうか。

2023 年度からはマスクを外し人と直接触れ合う、従来の教育形態に戻っていく。コロナ禍の3年間は、私たちにこれまでにない人との向かい方、関わり方を強いてきたかもしれないが、そのような中であっても本園の教育への姿勢は決して変わらず、コロナ禍を通して行ってきたこと、大切にしてきたことを確認しながらの教育であった。この3年間に子どもたちがたくましく育ってきたのと同じように、教員もぶれることなく教育を行ってきたことを称賛したい。

## 6 「学校評価（自己点検・評価）報告書」に対する園長の意見書

関西大学幼稚園

園長 藤川 友香

本園の学校評価は、2020 年度より「関西大学幼稚園教育課程」における教育内容と幼稚園教育要領の5領域との関連に焦点を当て、点検・評価しており、今年は3年目である。幼稚園教育要領の5領域については、事前に保護者に手紙で周知し、クラス懇談会で本園の教育内容を5領域に関連づけて伝え、理解していただけるように働きかけた。

保護者に本園の考えや幼児教育への理解を深めていただける機会として、園だよりや学年だより等の紙面を通して伝えることも行っているが、保護者の反応が直接わかるクラス懇談会は大きな役割を果たしている。クラス懇談会で子どもの様子を交えながら教育内容を5領域との関連も含めて伝えることで、幼稚園教育要領との繋がりをより理解していただけた。保護者には、クラス懇談会の中で記述アンケートにも丁寧に答えていただき感謝の思いである。記述アンケートを通して、教員の話聞いて保護者が感じたことや思ったことを知ることができた。ただ、アンケート回答でBの回答の理由がわかれば、改善する手がかかりをつかめたのではないかと考える。次年度は、アンケートを改善していきたい旨を保護者に伝え、アンケートの記述部分を回答していただけるようにしたいと考える。

コロナ禍も3年目となり、2022 年度の入園児は、入園までコロナ禍で過ごしてきた。子育てサークルや園庭開放など入園前に他の子どもと関わる機会や保護者同士が子育てについて話ができる場も閉鎖され、家庭で過ごす時間が多かったと推測される。その中で子育ての悩みを解決する方法として、ネット検索が身近になっていると感じる。しかし、子どもの発達の道筋は不変だが、育つペースには違いがあり、検索した答えによっては、一時的な解決になることもあるかと思うが、根本的な解決にはならないと考える。保護者自身が子どもの育ちを見て知り、気持ちを理解し、日々悩んだり考えたりしながら、子どもにとって今何が大切なのか、必要なことと、今は必要のないことをよく考え、与えることが大切だと考える。コロナ禍で人と接することが少なくなり、より対話をする大切さを感じている。保護者ともクラス懇談会や個人懇談会を通して、子どものことを一緒に考える有意義な時

間になるように教員間でも理解を深めたいと考える。

幼児教育は、すぐに成果がわかるものではなく、じっくり、ゆっくと時間をかけ、子どももの身になり、内面の育ちに繋がる。目に見えにくい教育とも言われるが、人間の土台になる重要な教育である。その責任の重さを感じながら、目の前の子どもたちや保護者のために、教職員一同、日々邁進していきたいと思う所存である。

## 7 アンケート結果

2022年度学校評価についてのアンケート項目一覧・実施対象者別アンケート結果比較一覧表（関西大学幼稚園）

2022年度 関西大学幼稚園 教員対象 学校評価に関するアンケート（用紙）

2022年度 関西大学幼稚園 保護者対象 学校評価に関するアンケート（用紙）

以 上



1. 「リズム運動」では、ひとつひとつの動きのポイントを理解し働きかけましたか。

- A 働きかけた
- B やや働きかけた
- C あまり働きかけなかった
- D 働きかけなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )

2. 「リズム運動」に関して、幼稚園教育要領の5領域との関連を意識して取り組むことができましたか。

- A 意識して取り組むことができた
- B やや意識して取り組むことができた
- C あまり意識して取り組むことができなかった
- D 意識して取り組むことができなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )

3. 「こいのぼり作り（絞り染め）」では、それぞれの子どものペースで取り組み、様々な過程を根気や集中力をもって取り組めるように働きかけましたか。

- A 働きかけた
- B やや働きかけた
- C あまり働きかけなかった
- D 働きかけなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )

4. 「こいのぼり作り（絞り染め）」に関して、幼稚園教育要領の5領域との関連を意識して取り組むことができましたか。

- A 意識して取り組むことができた
- B やや意識して取り組むことができた
- C あまり意識して取り組むことができなかった
- D 意識して取り組むことができなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )



5. 「みつろう粘土」では、感触を感じ、指先を使って様々なものを作りだすことを楽しめるように働きかけましたか。

- A 働きかけた
- B やや働きかけた
- C あまり働きかけなかった
- D 働きかけなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )

6. 「みつろう粘土」に関して、幼稚園教育要領の5領域との関連を意識して取り組むことができましたか。

- A 意識して取り組むことができた
- B やや意識して取り組むことができた
- C あまり意識して取り組むことができなかった
- D 意識して取り組むことができなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )

7. 「七夕飾りの制作」では、楽しんで取り組めるように働きかけましたか。

- A 働きかけた
- B やや働きかけた
- C あまり働きかけなかった
- D 働きかけなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )

8. 「七夕飾りの制作」に関して、幼稚園教育要領の5領域との関連を意識して取り組むことができましたか。

- A 意識して取り組むことができた
- B やや意識して取り組むことができた
- C あまり意識して取り組むことができなかった
- D 意識して取り組むことができなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )

9. 「体育的な遊び」では、子どもに体を動かす楽しさを味合わせ、意欲的に取り組めるように働きかけましたか。

- A 働きかけた
- B まあまあ働きかけた
- C あまり働きかけていない
- D 働きかけなかった

B、C、Dと答えた方はその理由を書いてください。

( )

10. 「体育的な遊び」に関して、幼稚園教育要領の5領域との関連を意識して取り組むことができましたか。

- A 意識して取り組むことができた
- B やや意識して取り組むことができた
- C あまり意識して取り組むことができなかった
- D 意識して取り組むことができなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )

11. 「ぬらし絵」を通して、子どもが色の世界を楽しめるように働きかけましたか。

- A 働きかけた
- B やや働きかけた
- C あまり働きかけなかった
- D 働きかけなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )

12. 「ぬらし絵」に関して、幼稚園教育要領の5領域との関連を意識して取り組むことができましたか。

- A 意識して取り組むことができた
- B やや意識して取り組むことができた
- C あまり意識して取り組むことができなかった
- D 意識して取り組むことができなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )

1 3. 「人形劇」では、環境を整え、子どもがお話の世界に入り込めるようにし、想像力を育めるように働きかけましたか。

- A 働きかけた
- B やや働きかけた
- C あまり働きかけなかった
- D 働きかけなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )

1 4. 「人形劇」に関して、幼稚園教育要領の 5 領域との関連を意識して取り組むことができましたか。

- A 意識して取り組むことができた
- B やや意識して取り組むことができた
- C あまり意識して取り組むことができなかった
- D 意識して取り組むことができなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )

2022 年度 関西大学幼稚園 保護者対象  
学校評価に関するアンケート（年少 6 月）

アンケートにご協力をお願いします。

今回のクラス懇談会では、「みつろう粘土」についてお伝えしました。

1. 「みつろう粘土」に関して、幼稚園教育要領の 5 領域と関連していると思  
いましたか。

（1 つ選んでください）

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

2. 「みつろう粘土」の話を聞いたり、触ってみて思ったことや感じたことが  
あれば、どんなことでも結構ですのお書きください。

3. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあればお書きく  
ださい。

よろしければお名前をお書きください。

---

2022 年度 関西大学幼稚園 保護者対象  
学校評価に関するアンケート (年少 11 月)

アンケートにご協力をお願いします。

今回のクラス懇談会では、「ぬらし絵」についてお伝えしました。

1. 「ぬらし絵」に関して、幼稚園教育要領の 5 領域と関連していると思いま  
したか。

( 1 つ選んでください )

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、D と答えた方はその理由をお書きください。

( \_\_\_\_\_ )

2. 「ぬらし絵」の話を聞いたり、体験して思ったことや感じたことがあれば、  
どんなことでも結構ですのお書きください。

3. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあればお書きく  
ださい。

よろしければお名前をお書きください。

\_\_\_\_\_

2022年度 関西大学幼稚園 保護者対象  
学校評価に関するアンケート（年少2月）

アンケートにご協力をお願いします。

今回のクラス懇談会では、「人形劇」についてお伝えしました。

1. 「人形劇」を通して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思  
いましたか。（1つ選んでください）

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

( )

2. 「人形劇」の話を聞いたり、見たりして思ったことや感じたことが  
あれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。

3. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあれば  
お書きください。

よろしければお名前をお書きください。

---

2022 年度 関西大学幼稚園 保護者対象  
学校評価に関するアンケート（年中 6 月）

アンケートにご協力をお願いします。

今回のクラス懇談会では、「リズム運動」についてお伝えしました。

1. 「リズム運動」に関して、幼稚園教育要領の 5 領域と関連していると思われましたか。

（1 つ選んでください）

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

2. 「リズム運動」を参観し、話を聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのお書きください。

3. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあればお書きください。

よろしければお名前をお書きください。

---

2022 年度 関西大学幼稚園 保護者対象  
学校評価に関するアンケート（年中 7 月）

アンケートにご協力をお願いします。

今回のクラス懇談会では、「七夕制作」についてお伝えしました。

1. 「七夕制作」に関して、幼稚園教育要領の 5 領域と関連していると思いま  
したか。

（1 つ選んでください）

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

2. 「七夕制作」の話を聞いたり、作ってみて思ったことや感じたことがあれ  
ば、どんなことでも結構ですのお書きください。

3. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあればお書きく  
ださい。

よろしければお名前をお書きください。

---



2022 年度 関西大学幼稚園 保護者対象  
学校評価に関するアンケート（年長 6 月）

アンケートにご協力をお願いします。

今回のクラス懇談会では、「こいのぼり作り（絞り染め）」についてお伝えしました。

1. 「こいのぼり作り（絞り染め）」に関して、幼稚園教育要領の 5 領域と関連していると思いませんか。

（1 つ選んでください）

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

2. 「こいのぼり作り（絞り染め）」の話を聞いたり、絞り染めをして思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。

3. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあればお書きください。

よろしければお名前をお書きください。

---

2022 年度 関西大学幼稚園 保護者対象  
学校評価に関するアンケート（年長 9 月）

アンケートにご協力をお願いします。

今回のクラス懇談会では、「体育的な遊び」についてお伝えしました。

1. 「体育的な遊び」に関して、幼稚園教育要領の 5 領域と関連していると思  
いましたか。

（1 つ選んでください）

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

2. 「体育的な遊び」の話聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんな  
ことでも結構ですのでお書きください。

3. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあればお書きく  
ださい。

よろしければお名前をお書きください。

---